

総合計画体系	政策No. 3	政策名	うるおいと活力のある快適なまちの形成	施策主管課	建設部 道路整備課
	施策No. 15	施策名	道路・河川の整備	施策主管課長名	古屋 桂
施策関連課名		都市計画課、用地管理課			

1 施策の目的と目標

<p>① 対象(誰、何を対象としているのか) *人や自然資源等</p> <p>市民・歩行者・通行車(二輪・四輪車) 河川・水路</p>	<p>③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) *数字は記入しない</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>A 市人口</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>B 河川の延長</td> <td>km</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	A 市人口	人	B 河川の延長	km	C					
名称		単位											
A 市人口	人												
B 河川の延長	km												
C													
<p>② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)</p> <p>道路を安心・安全に利用でき、移動時間の短縮が図られる。 雨水が適正に処理・管理されることで、災害・水害の発生がなくなる。</p>	<p>④ まちづくり指標(意図の達成度を表す指標) *数字は記入しない</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>A 市内道路の整備状況に満足していると回答した市民の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>B 目的地までの移動時間が短縮されたと回答した市民の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>C 補修した橋梁の数</td> <td>橋</td> </tr> <tr> <td>D 水害の心配がないと回答した市民の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td></td> </tr> </table>	名称	単位	A 市内道路の整備状況に満足していると回答した市民の割合	%	B 目的地までの移動時間が短縮されたと回答した市民の割合	%	C 補修した橋梁の数	橋	D 水害の心配がないと回答した市民の割合	%	E	
名称	単位												
A 市内道路の整備状況に満足していると回答した市民の割合	%												
B 目的地までの移動時間が短縮されたと回答した市民の割合	%												
C 補修した橋梁の数	橋												
D 水害の心配がないと回答した市民の割合	%												
E													
<p>・まちづくり指標設定の考え方(理由、数式も) ・まちづくり指標の測定規格(手段はアンケートか、統計か)</p>		<p>A:道路整備に関する市民の満足度を示す。【市民アンケートの「市内の道路の整備状況に満足していますか」において、肯定的回答の割合】 B:道路の利便性に関する市民の評価を示す。【市民アンケートの「道路が整備されているため、目的地までの移動時間が短縮されたと感じますか」について、肯定的回答の割合】 C:橋梁長寿命化計画による安全対策の成果を示す。【橋梁長寿命化修繕計画に基づき長寿命化対策の補修をした橋梁の数】 D:河川・水路の整備に関する市民の評価を示す。【市民アンケートの「住んでいる地域は、水害の心配はないと思いますか」において、肯定的回答の割合】</p>											

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象指標	A 人	見込み値		72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
		実績値	72,963	72,715	72,305				
	B km	見込み値		127.2	127.2	127.2	127.2	127.2	127.2
		実績値	127.2	127.2	127.2				
	C	見込み値							
		実績値							
まちづくり指標	A %	目標値	未設定	未設定	43.8	44.6	45.4	46.2	47.0
		実績値		43.4	37.8	39.0			
	B %	目標値	57.9	59.4	55.0	57.0	59.0	61.0	63.0
		実績値	58.2	52.9	58.3	56.4			
	C 橋	目標値	未設定	未設定	6	9	1	19	1
		実績値	9	128	6	9			
	D %	目標値	57.3	57.9	54.4	54.8	55.2	55.6	56.0
		実績値	55.5	54.2	59.4	55.1			
	E	目標値							
		実績値							
関連事業本数			44	42	40	36			
関連事業予算額(単位:千円)			627,256	586,497	690,413	713,003	0	0	0
(予算額の内訳)	国庫支出金		233,745	203,800	275,014	264,815			
	県支出金		17,005	17,072	17,566	18,816			
	地方債		162,000	153,800	206,000	195,700			
	その他		8,150	8,450	8,450	16,704			
	一般財源		206,356	203,375	183,383	216,968			

目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)

第二次総合計画値の平成31年度中間値を目標設定しています。  
A:計画的な生活道路の整備と維持管理により、5年間で約4ポイントの上昇を目標設定  
B:計画的に幹線道路等の整備をすることにより5年間で約10ポイントの上昇を目標設定  
C:年次計画により補修した橋梁の数。該当橋梁323に対し10年間で191橋の長寿命化を予定  
D:計画的に河川・水路等の整備をすることにより5年間で約2ポイントの上昇を目標設定

### 3 評価結果

#### 施策の有効性評価

##### ① 目標達成度評価（目標値と実績値との比較）

- 目標値より高い実績値だった  
 目標値どおりの実績値だった  
 目標値より低い実績値だった

##### ※左記の理由

目標値に対し、Aでは下回る、Bでも下回る、Cは実数、Dでは上回る結果であった。A・Bが下回ったのは、市民生活に密着した道路整備に対する要求が強いものがあると考えられる。

##### ② 時系列比較（過去5ヶ年の比較）

- 成果がかなり向上した  
 成果がどちらかと言えば向上した  
 成果はほとんど変わらない（横ばい状態）  
 成果がどちらかと言えば低下した  
 成果がかなり低下した

##### ※左記の理由

各事業を着実に進めてはいますが、年度により数値の変動はあるものの、H27年度より施策体系が変更になったこと、設問事項が変更になっている為、明確な比較対比は出来ませんが、前年度との比較でも、基本的に必要性は高く、満足度は低迷している傾向の変化は見られないことから成果はほとんど変わらないと判断しました。

##### ③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である  
 どちらかと言えば高い成果水準である  
 ほぼ同水準である  
 どちらかと言えば低い成果水準である  
 かなり低い成果水準である

##### ※左記の理由

本市の道路整備に対する満足度は、39%であった。H26年度甲斐市のアンケート結果で、生活道路の整備状況に対する満足度-0.25ポイントと概ね平均値（0値を標準としている。）との比較をすると本市より大幅に上回っている。河川整備については、県による市内の県管理1級河川の整備や、町村時代から準用河川や都市下水路等の整備により、雨水などの災害対応が進められてきているため、評価結果からもほぼ同水準。指標が一律ではないので一概には判断しにくい部分はあるが、二項目を勘案すると、どちらかと言えば低い成果水準にしました。

##### ④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である  
 どちらかと言えば高い成果水準である  
 ほぼ同水準である  
 どちらかと言えば低い成果水準である  
 かなり低い成果水準である

##### ※左記の理由

施策別満足度で見ますと、道路河川に対する重要視は約70%と高く、市民のインフラ整備を求めている事が推察されます。これに対し、満足傾向としては、約35%と低い値になっていることから判断しますと、住民の期待する成果水準では、どちらかと言えば低い成果水準としました。これは、①でも述べましたが、市民生活に密着した道路整備を求めていると思われる。

### 4 まとめ

#### 施策の課題抽出とその課題解決（成果向上）の方向性と具体的な取組内容

施策の課題抽出	課題解決の方向性	具体的な課題解決・改善内容
市民生活に密着した道路整備の遅れ	南アルプス市交通安全プログラム掲載道路整備、苦情等への迅速対応	認定市道874kmに対し満足のいく道路整備を行うことには無理がある。このため、毎年、関係部署による合同点検で抽出された危険箇所を含む道路整備の推進。 毎年度修繕要望300件前後、苦情・通報が350件前後と膨大な要求があるため、迅速な対応により最小限の対応費用に出来るよう努めていく。
大規模災害時における、緊急避難路等の不足	道路整備プログラムによる、計画的な幹線道路網の推進	施策別満足度傾向及び施策重要視傾向でも推察されるように、市民の防災意識は高いが満足度が低い状況からも、東海地震などの大規模災害が懸念されるなか、市内では、南北の縦軸が整備は進んでいますが、地域につながる横軸の幹線道路が不足している状況です。このため、災害時には市内外からの緊急車両の通行に支障が出る可能性があるため、道路整備プログラムに基づいた計画的な横軸の整備を進める。
道路構造物の経年劣化による安全性の低下	経年劣化による道路構造物について、改修や修繕により長寿命化を図り安全性維持。橋梁長寿命化計画に基づく、耐震補強・修繕対応。舗装長寿命化計画の作成、事業推進。	耐用年数を既に過ぎているインフラ構造物が大半を占め、これから益々その割合が増していく中で、長寿命化計画に基づく経費の平準化を図りながら、計画的に進めていく。また、長寿命化計画外の構造物の比率が多い、市民生活に密着な道路等については、適切な修繕を行ない構造物の長寿命化を図っていく。
雨水等による冠水	下水雨水処理計画に基づく事業推進。頻発箇所把握、処理	市内にある県管理河川をはじめ、市内には無数の小水路があるが築造された時点と流出時間等が大幅に変わっている状況で、構造物が対応しきれない状況である。下水道整備エリアについては、雨水処理計画に基づく事業推進を担当課と調整を行い進める。その他のエリアについては、これまでの被害箇所の把握、整理を行い優先的に処理を進める。